



障害福祉に関する相談支援体制の充実と自立支援協議会 相談支援体制充実への取り組み

広島県東広島市社会福祉課
東広島市子育て・障害総合支援センターはあとふる

石原さやか
金子百合子

東広島市の概要

平成17年2月に旧東広島市と賀茂郡4町、豊田郡1町が合併して誕生

人口	177,727人
世帯数	73,381世帯
面積	635.32Km ²
身体障害者手帳所持者	5,778人
療育手帳所持者	1,059人
精神保健福祉手帳所持者	832人
自立支援医療受給者（精神）	1,258人



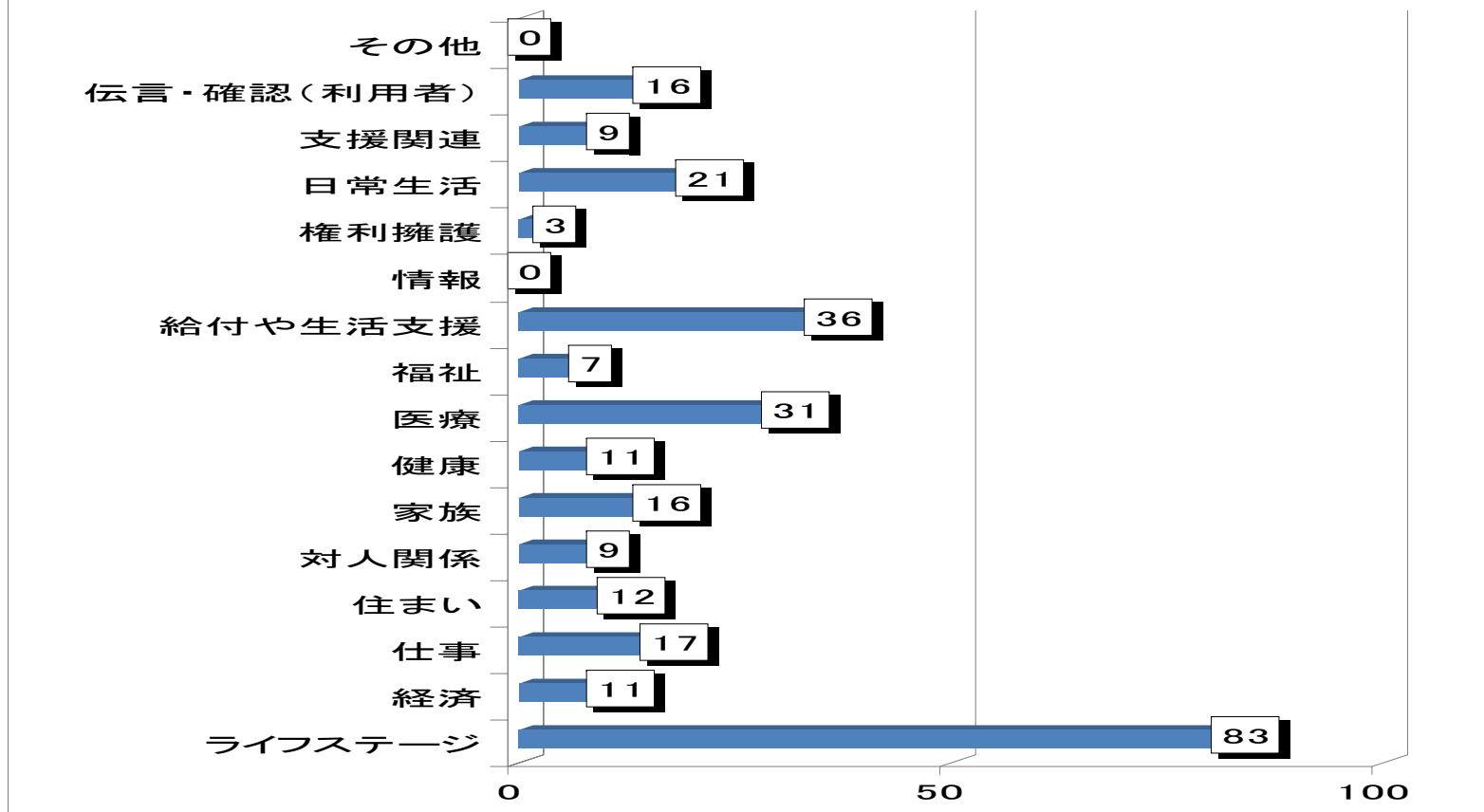
平成20年7月1日現在

相談支援事業概要

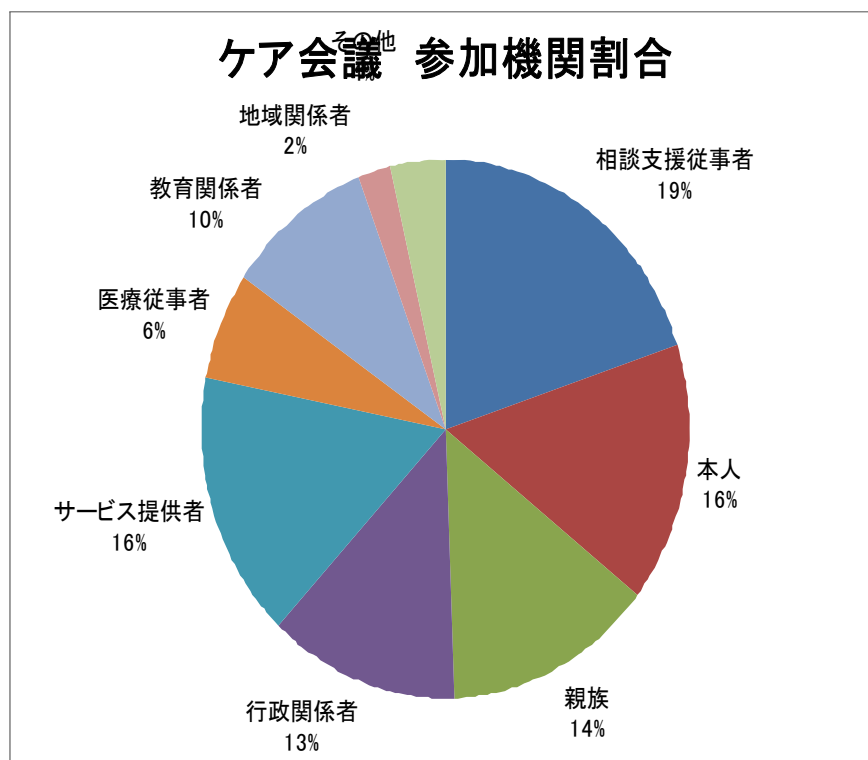
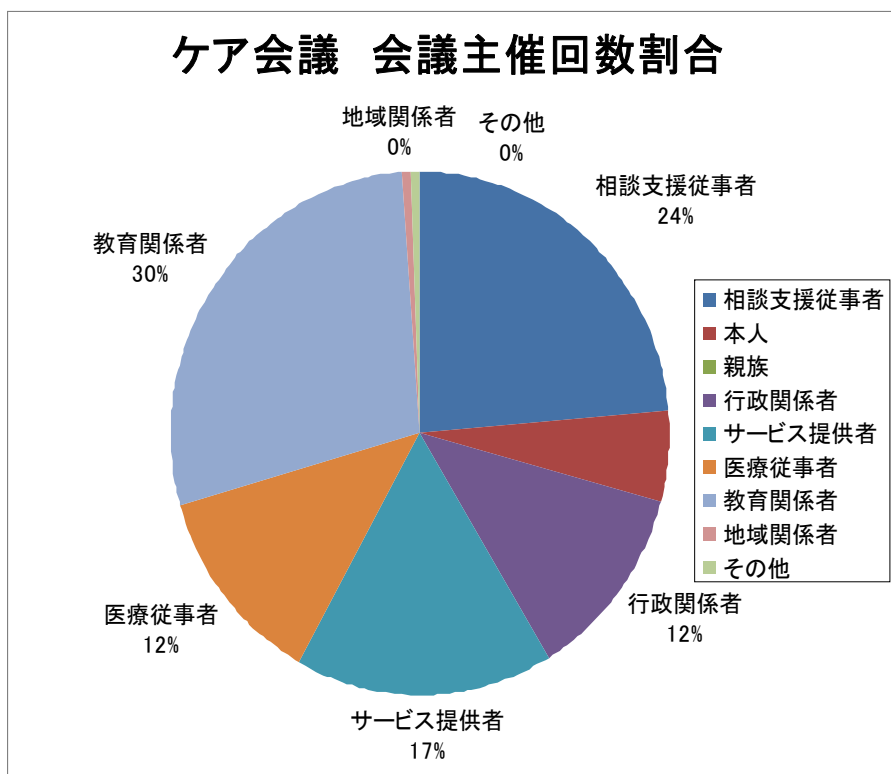
相談支援体制	地域自立支援協議会	重層的な仕組み	個別支援会議実施状況	開催回数
委託(3法人)	設置済	あり	日常的に開催	4月 17回 5月 18回 6月 15回
東広島市子育て・障害総合支援センターに常時駐在	平成16年度から取り組んできた機能をそのまま移行	分野別会議と課題別会議の2本立てで模索中	各機関の呼びかけで会議開催 (教育、医療、行政、相談支援事業者、本人等)	平均 16.7回

平成19年8月～平成20年5月 開催ケア会議(203回)の議題内訳資料

ケア会議 議題項目件数

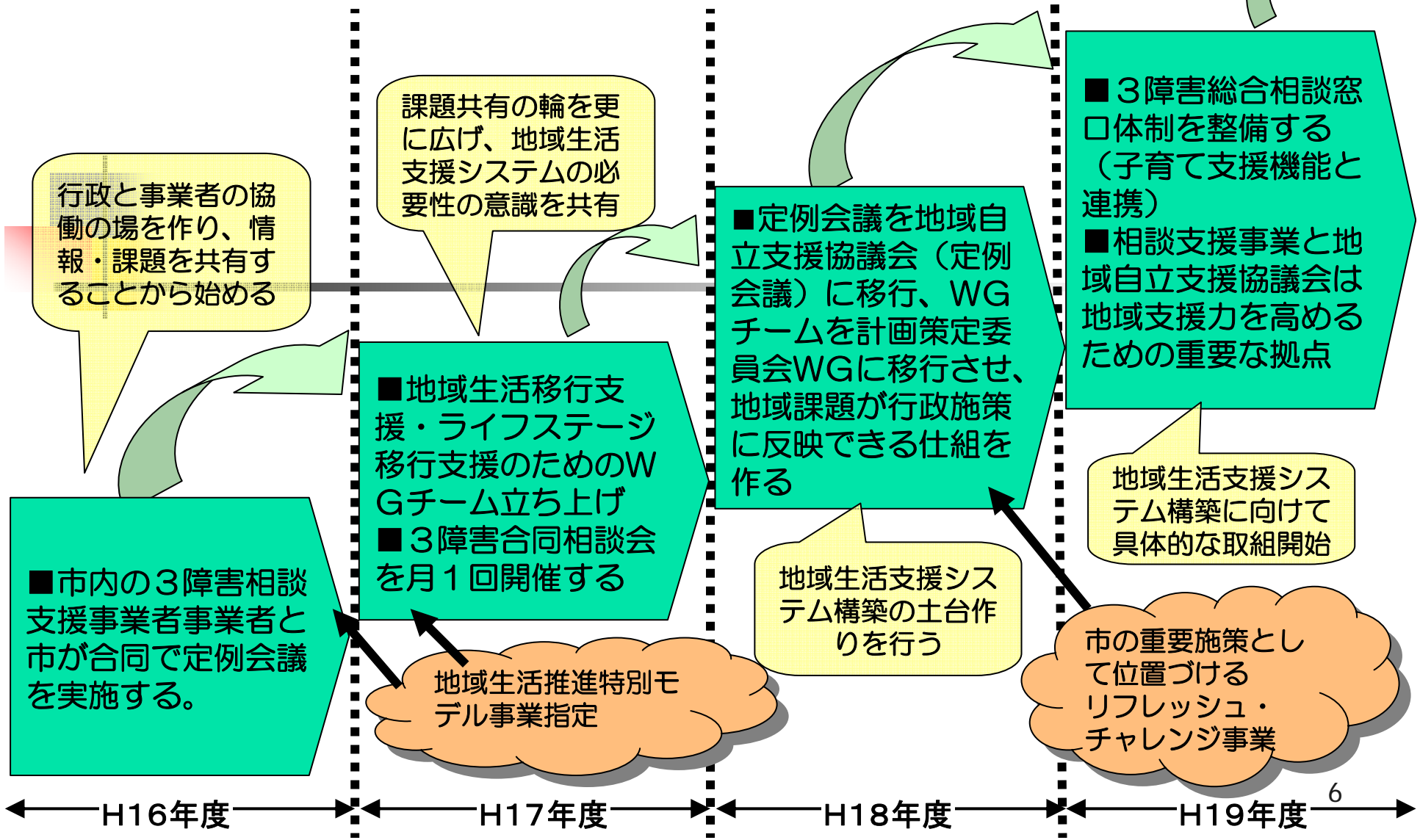


平成19年8月～平成20年5月 開催ケア会議(203回)の参加者内訳資料



相談支援体制ステップアップの過程

H20年度



行政と事業者の協働の場を作り、情報・課題を共有することから始める

課題共有の輪を更に広げ、地域生活支援システムの必要性の意識を共有

■地域生活移行支援・ライフステージ移行支援のためのWGチーム立ち上げ
■3障害合同相談会を月1回開催する

■市内の3障害相談支援事業者事業者と市が合同で定例会議を実施する。

地域生活推進特別モデル事業指定

■定例会議を地域自立支援協議会（定例会議）に移行、WGチームを計画策定委員会WGに移行させ、地域課題が行政施策に反映できる仕組みを作る

地域生活支援システム構築の土台作りを行う

■3障害総合相談窓口体制を整備する（子育て支援機能と連携）
■相談支援事業と地域自立支援協議会は地域支援力を高めるための重要な拠点

地域生活支援システム構築に向けて具体的な取組開始

市の重要施策として位置づけるリフレッシュ・チャレンジ事業

← H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 → 6

東広島市障害者計画・障害福祉計画

(1) 計画の基本理念

共に生きる

自分らしく生きる

地域共生のまちづくり
～このまちで私らしく生きるために～

(2) 基本方針

- ①共に理解し、ふれあう
- ②共に学び、活躍する
- ③共に支えあい、暮らす

(3) 重点施策

- ①ライフステージ移行支援
- ②就労・社会参加支援
- ③住まいの支援と権利擁護



計画の推進体制



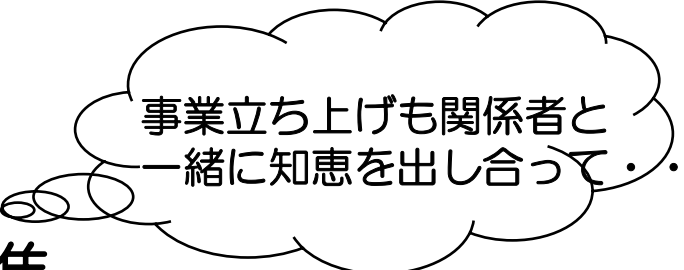
19年度予算要求と計画
策定作業が同時進行・・・

(1) 総合相談支援窓口を整備

障害の枠を超えた総合的な相談窓口設置
子育て支援窓口併設

(2) 地域自立支援協議会を核とする地域生活 支援体制を整備

市と委託相談支援事業者による
自立支援協議会運営



事業立ち上げも関係者と
一緒に知恵を出し合って・・・

(3) 市民みんなで計画を推進



東広島市子育て・障害総合支援センター

東広島市の中心市街地にある東広島市民文化センター内に
子育て・障害総合支援センター「はあとふる」を開所

【特長】

- 市が整備を行い、委託相談支援事業者(3法人)の相談支援コーディネーターを駐在させる。
(コーディネーター6人+事務職員1人)
- センター管理、窓口対応のために市職員及び非常勤職員、(所長(子育て支援機能兼務)、活動支援員)を置く(3人)
- 子育て支援機能(家庭児童相談員、基幹型子育て支援C、ファミリーサポートC等)を併設し、連携して支援を行うことにより、ライフステージ移行支援で重要な部分を占める早期療育支援機能の強化を図る。



障害者相談支援センター基本方針

- 利用者主体の支援
- 障害分野を超えた協働による
地域福祉づくり
- 地域自立支援協議会の着実な運営
- 地域社会資源のネットワークづくり
- 人材育成機能

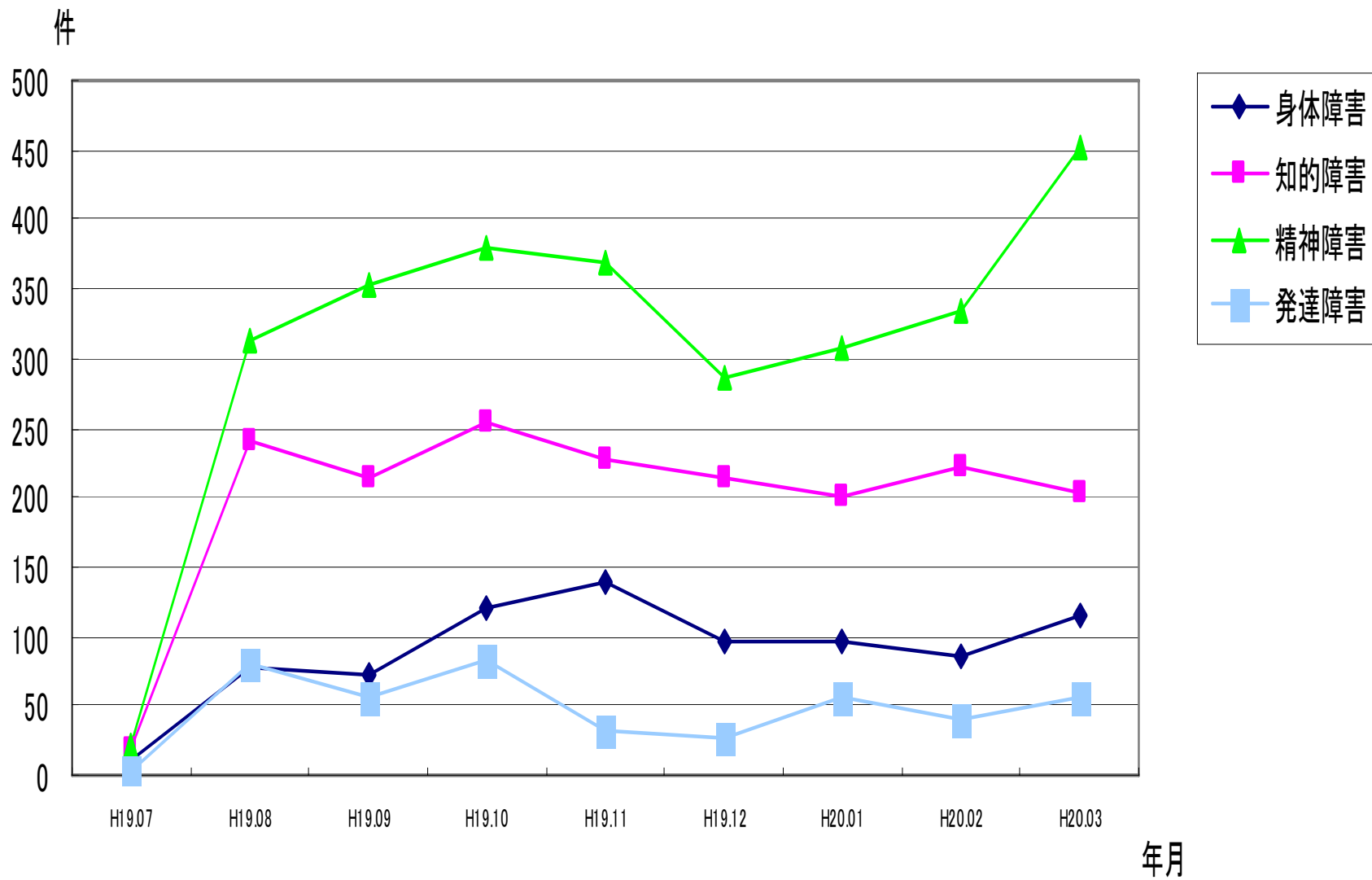
はあとふる入り口



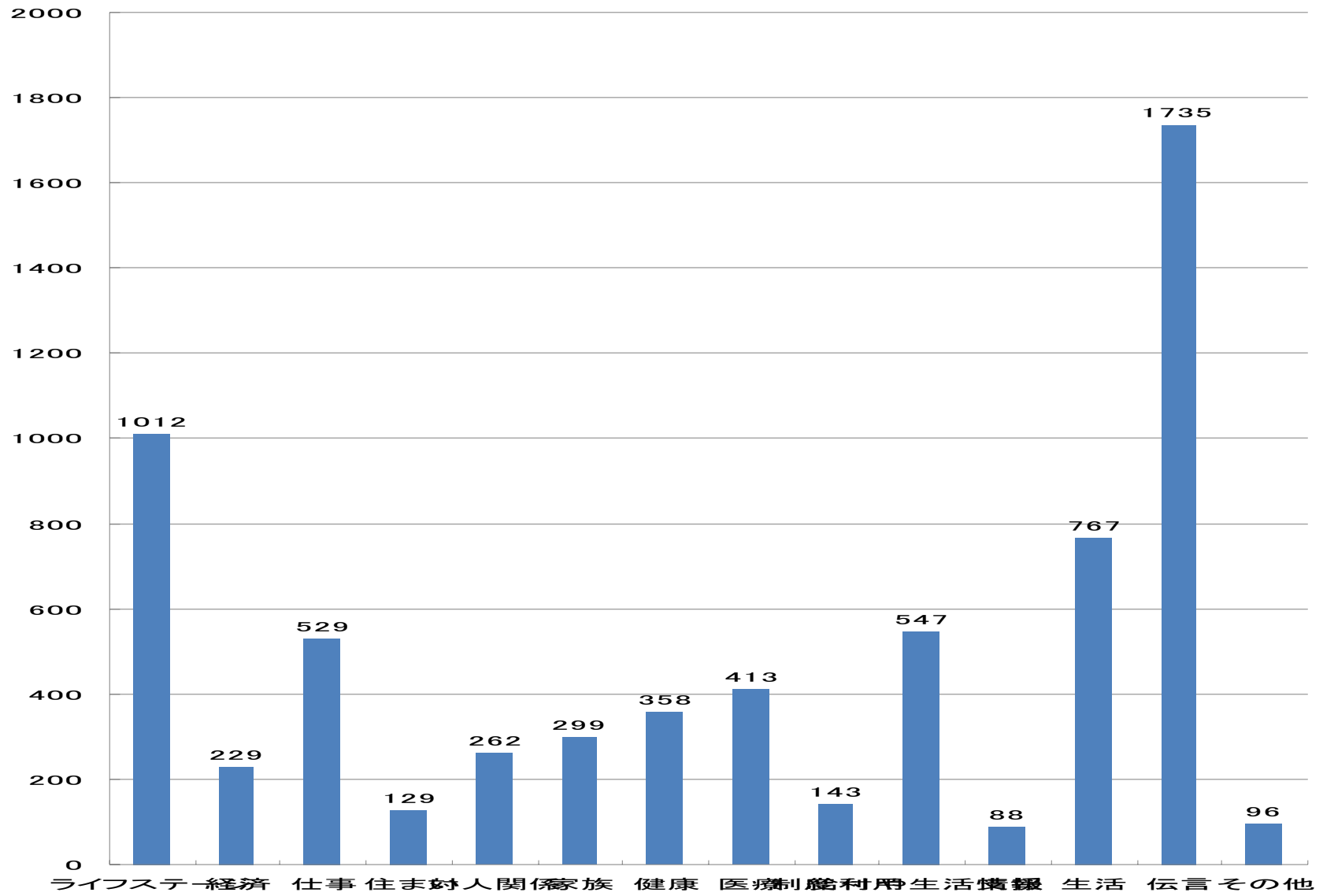
障害者相談支援センター一部分



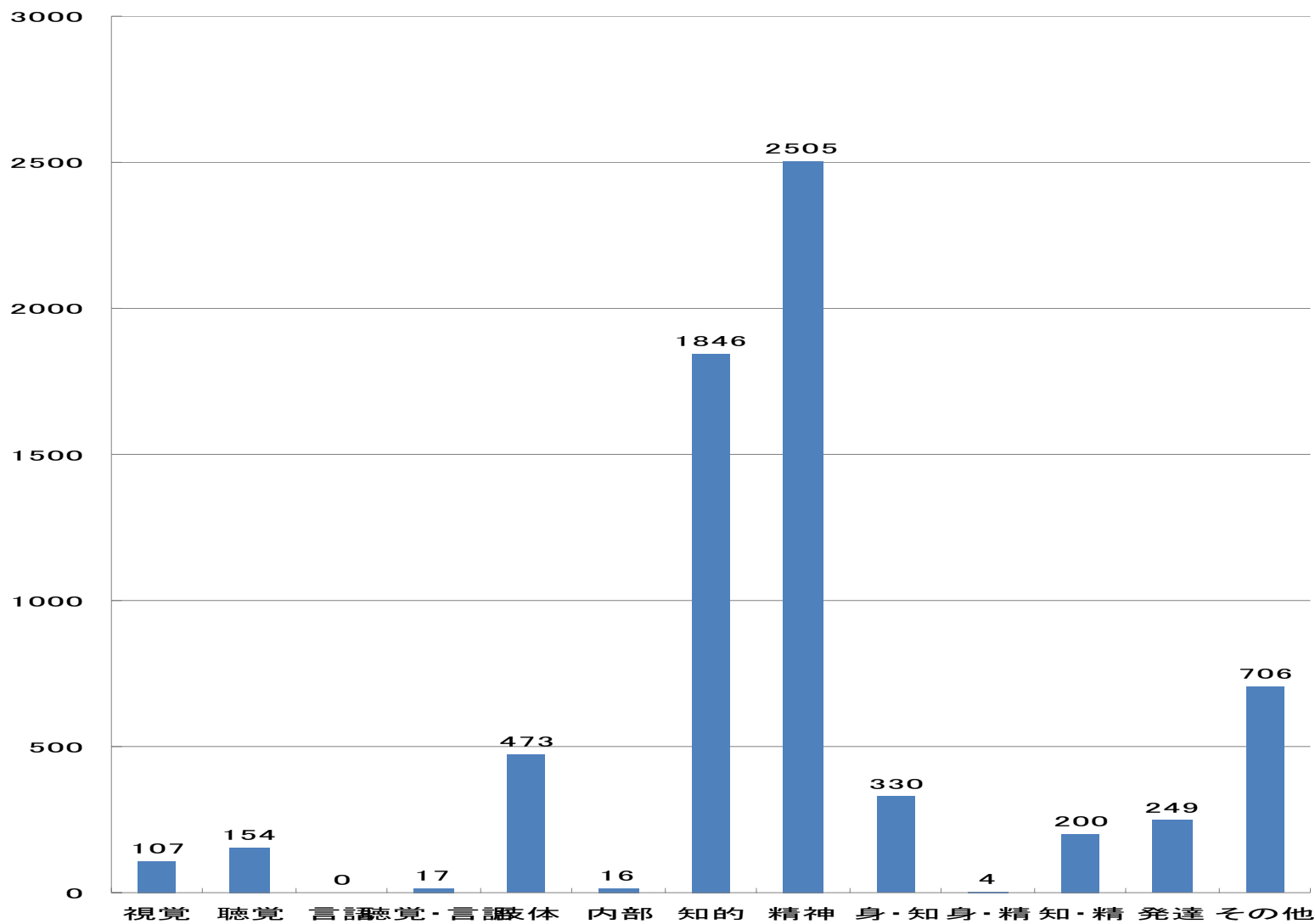
障害者相談支援センター受付状況(H19年7月～H20年3月)



相談内容別相談件数 期間：2007/7～2008/3

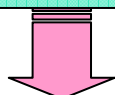


障害別相談件数 期間：2007/7～2008/3



地域自立支援協議会

個別支援会議⇒個別のケースに応じた支援者会議



定例支援会議⇒関係者の情報共有・地域課題抽出

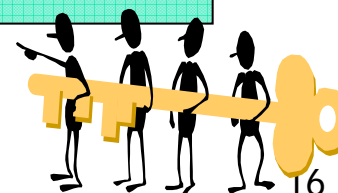


課題別会議⇒中長期的課題検討・プロジェクト会議



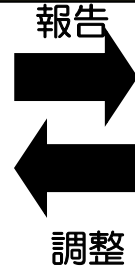
全体会議⇒社会資源提案・検討、評価

自立支援協議会は会議でなくプロセス



地域自立支援協議会

個別ケア会議
(随時開催)



事務局会議
(毎週月曜日開催)
社会福祉課、障害者相談支援C

課題提起・運営

相談支援定例会議 (毎月第3木曜日)

指定相談支援事業者、発達障害者支援C、高次脳機能C、医療機関MSW、社会福祉協議会、就業・生活支援C、市発達障害支援CD、市就労支援CD、市児童福祉課、身体障害者専門相談員、福祉サービス利用支援員、家庭相談員等

定例支援会議 (毎月第4木曜日)

相談支援会議メンバー、教育機関(大学、小学校、幼稚園、特別支援学校等)、ハローワーク、施設、障害福祉サービス事業者、地域活動支援C、基幹型子育て支援C、保健所、市教育委員会、保健センター、産業振興課、支所担当課 等

全体報告

+

精神保健福祉分野

療育支援分野

地域生活支援分野

全体会議 (年2回程度)

課題別会議

プロジェクト会議



東広島市障害者計画策定委員会

課題の共有から課題の解決へ

分野別
メンバー

H19、9～H20、3月分野別会議で情報、課題確認

精神保健福祉分野
課題別検討

療育支援分野
課題別検討

地域生活支援分野
課題別検討

H20、4～6月課題別会議

課題抽出・共有

課題別
メンバー

障害児長期休暇の
過ごし方(日中一
時支援、短期入所
の利用ルール)

就労支援
(共通のアセスメント
シート作成)

障害児長期休暇の
過ごし方
(社会資源の開発)

ホームヘルパー確保
(人材育成・支援)

ケア会議で出た話

夏休みや放課後に障害児が過ごす場がない・・・
日中一時支援事業に利用者が殺到し、争奪戦状態に・・・
3時過ぎに学校から帰ってテレビかゲームで過ごす毎日・・・

(保護者の思い)

- ・ 日中一時支援を利用したい
- ・ 学童保育中に地域開放のプールを利用したい
- ・ いろいろな体験をさせたい
- ・ 他の兄弟にも関わってあげたい

(事業者の思い)

夏休みだけに支援が集中し、継続性がない
サービス体制が人的にも質的にも不十分
利用予約が早いもの勝ちになってしまう・・・

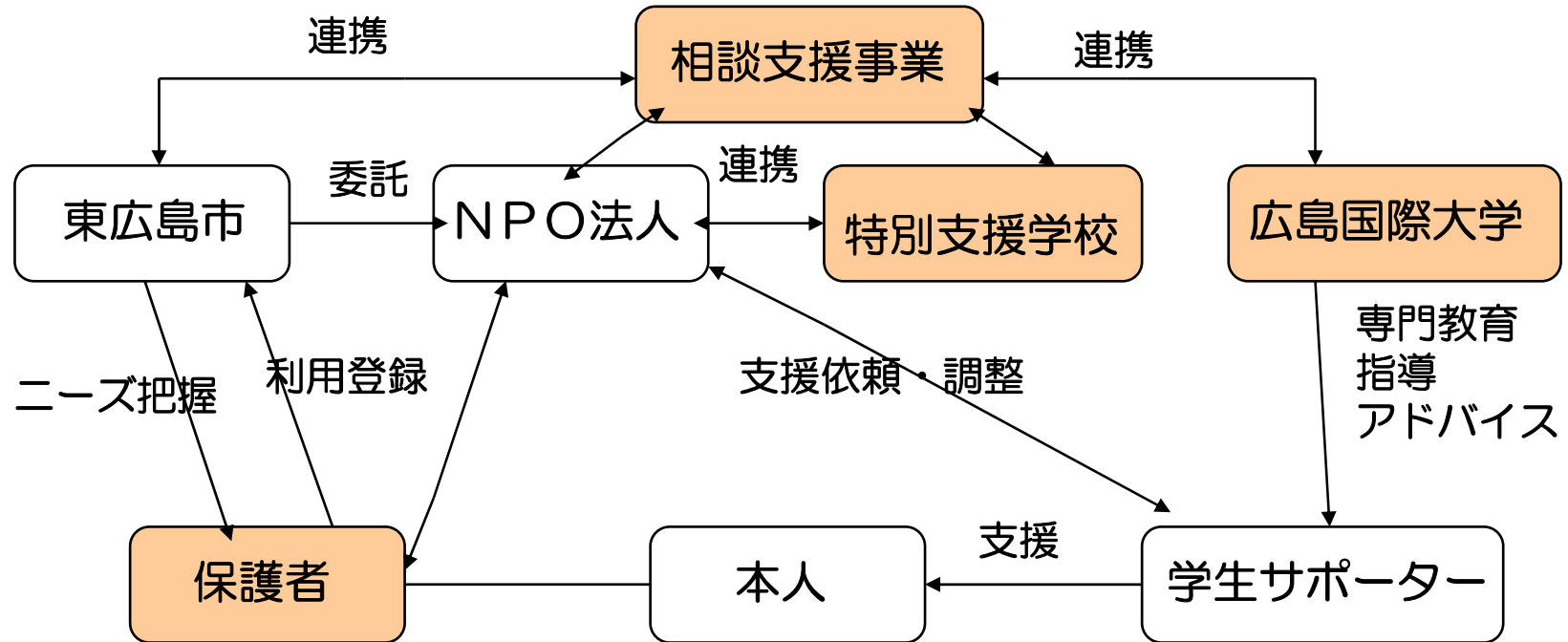
H18年度計画策定WG会議で地域課題として検討
→障害者計画の重点施策に位置付けた
→H19年度プロジェクト会議で具体的に内容検討

定例支援会議で地域課題の抽出整理

夏休みにニーズが高い地域プール利用対応
障害児の活動の場を創出
日中一時支援利用に関するルールづくり

大学生を活用して日中活動を支援する事業をつくろう

計画策定メンバー所属・・・



プロジェクト会議で内容検討し、**協働**で事業立ち上げ

事業に関わっている人たちの思い・・・

地域での学校の位置づけが変わり、この事業は絶好のチャンス。
機が熟せば、多くの経験を持つ地域のお年寄りにも参加してらえる活動になれば・・・(黒瀬特別支援学校)

この事業は学生にとってもメリットがある。直接子どもたちと接することが何よりの勉強。この経験は就職してからも活かされるはず。子どもが学生の先生になってくれる。(広島国際大学教授)

84人中43人が登録、皆放課後の活動を熱望していたことを再認識した。学生とPTAと一緒に考えこの事業をステップアップさせたい。送迎についてもお互い助け合えないか、話す機会をつくろうと思う。(保護者)



最初は不安だったけど、今は目的を達成するための支援を意識するようになった。子どもの変化を見ながらどう支援するのがいいかを考え、支援も日々進化。学生も子どもたちと一緒に成長している。(サポーター)

今日は高校野球の話をお兄さんとしたんよ。
お兄さん、かっこいいな。僕もやってみたい。(子どもたち)

計画策定に関わり、保護者や本人の思いが形になってとても嬉しい。この事業を私たちも大事に育てていきたい (WG委員・保護者)